

## 【被災地を歩く】 ネパールのカトマンドゥを訪ねて

7月14日～18日、ネパールのカトマンドゥ（カトマンズの現地読み）へ行ってきました。航空機はLCC（格安航空会社）のエア・アジア。マレーシアのクアラルンプール経由です。

エッセイストの酒井順子さんは、OL時代、仕事をやり終えて休暇を取って、人形町のエア・シティターミナルから成田空港行きのジムリンバスに乗った時が、人生で一番至福の時だった。しかし、自由業となった今は、海外へ出かける時も、あの時の至福は感じない、と書いています。私の場合は、やり残した仕事をほっぽり投げて、いわき駅から特急ひたちには乗り込みました。帰国して職場に出勤すると、やり残した書類の上に、新しい書類が積まれていました。

ネパールでは、2015年4月25日にネパール大地震が起きました。私が行ったのは、カトマンドゥ市内のダルバール広場と、近郊のパタンとバクタプルです。

ダルバール広場では、寺院の建物のいくつかは、衝立てがしてありました。建物の前には、「セーフゾーン」と「デンジャーゾーン」の立て看板がありました。「デンジャーゾーン」の建物の中にも、人が座っていました。

ホテルは、いつもよりも少し高級なホテル（カトマンドゥ・ゲスト・ハウス）に泊まりました。2泊3日で7,000ルピア（1ルピア≒1円、分かり易い）でした。高級ホテルの欠点は、鉄道の駅や高速バスのターミナルへ行くために、路線バスの停留所への行き方を聞くと、目的地までタクシーで行けと言われることです。

パタンへ行く時も、ホテルのフロントで、案の定タクシーで行けと言われました。行きタクシー代は、1,000ルピア、帰りのバス代は15ルピアでした。パタンでは、外国人は街への入場料として、730ルピア取られました。しかし、現地人は大勢歩いているので、払わなければ良かったと後悔しました。

バクタプルは、世界遺産の街です。今度は、道でタクシーを拾って、バス停まで行って、バスに乗りました。バス代は、35ルピアでした。バクタプルは、落ち着いた良い街です。建物は、茶色のレンガ色で統一されています。ここでは、地震で、王宮の壁が壊れていたり、いくつかの建物には、衝立てがしてありました。また、壊れたレンガが山積みになっていました。

困ったことは、私は、ネパール語が読めないで、話せません。バスの行き先は、アルファベットや漢字ではなくて、ネパール語です（当たり前）。「地球の歩き方」を見て、バスの運転手に「バクタプル」と言って、「イエス」の返事でバスに乗ります。そして、隣りに坐った人にも、「バクタプル」と言います。すると、降りるバス停に着いたら、ここで降りろと言ってくれます。しかし、帰りのバスでは、隣りに座った人が私よりも先に降りてしまい、頭の中が真っ白になりました。

【デンジャーゾーン（危険地帯）の建物で休む人（ダルバール広場 カトマンドゥ）】



【世界遺産の街 寺院の傍には壊れたレンガが山積みそのまま（バクタプル）】



【ネパール地震】2015年4月25日 11:56 カトマンドゥの北西約 77 km、  
震源の深さ 15 km マグニチュード 7.8 死亡者 8,964 人（世界）  
負傷者 15,269 人（国内） 約 800 万人（ネパールの人口の 30%）が被災との報道も